

研究室紹介

奈良県

景観・環境総合センター 大気係

奈良県のキャラクターは  
せんとかんだけ  
じゃないな〜ら!



奈良県エコキャラクター「な〜らちゃん」

● 新組織の紹介

今回紹介させて頂くことになりました奈良県景観・環境総合センターの大気係です。平成25年に組織改編により「奈良県保健環境研究センター」から環境研究部門（大気係、水質係）が独立し、環境監視部門と一体化され、「奈良県景観・環境総合センター」となりました。観光立県である奈良県には、以前より景観面と環境面を監視、保全する「奈良県景観・環境保全センター」がありました。県内の環境指導から廃棄物関連の許認可、さらに産廃監視パトロール部隊（9台体制）を持ち合わせた監視部門と、我々研究部門が統合し、総合センター化され、現在では多種業種の職員が1つの現場で働く、地方環境研究所では非常に珍しい職場となっていると思います。

大気係は、その総合センターの1つの係で、大気担当統括（課長）を入れ7名の職員（再任用職員1名、日々雇用職員1名含む）で業務を行っています。また、組織の改編に合わせて、研究棟も桜井市に新設移転されました。なお、環境研究部門の職員は研究職ではありませんが、近年の採用では奈良県職員（化学）として総合職採用されており、他部署への異動が普通にあります。人事異動により、ここ1~2年で係員3名が一掃され、現在係員は経験年数2年未満、ともに30歳以下の職員となり、大気係はかなり若返ったと同時に、技術や研究の継承等に不安もある状況です。

● 日々の仕事

大気係の業務は、全国の地方環境研究所と同様に、大気汚染防止法立入調査（有害大気汚染物質）、アスベスト対策調査、簡易測定による監視（降下煤塵調査、二酸化窒素調査）、有害大気汚染物質対策調査、酸性雨調査、微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）の成分分析、騒音・振動調査、環境放射能測定調査からなります。

多くの奈良県民は、県内において山も川も空も美しく環境に問題がないようにも感じていると思います。しかし、大気には境界はなく隣接する大都市圏や中国大陸からの移流による影響を受けます。また、人口の9割が在住する奈良盆地は、盆地特有の気象状況を示し、時として大気の閉鎖的な滞留を引き起こします。このような状況下、近年においてPM<sub>2.5</sub>が話題となりました。PM<sub>2.5</sub>に関しては、成分分析の新規立ち上げにより、大気係の需用費の半分以上をPM<sub>2.5</sub>成分分析事業が占めることになりました。現在、奈良県ではPM<sub>2.5</sub>成分分析事業を行うとともに、独自に高濃度事例解析やPMFを用いた発生源寄与解析を中心に研究を進めています。また、国立環境研究所とのII型共同研究にも積極的に参加し研究を行っています。さらに、その共同研究で得た知識と技術を用いて、できる限り地域事情にあった問題を解決するために取り組んでいる所です。  
(大気係 浅野勝佳)

若手研究員から一言

大気係には以前から求められる職員像があり、“背が高くて、力持ち、運転の上手な男の子”と言われてきました。しかし近年異動してくるのは女性職員ばかり。最初は少し甘えていた部分もありましたが、そんなことも言っていないかもしれません。主要な測定局である天理局は、土手沿いに局舎を構え、両側には草が生い茂り、一歩間違えれば車ごと川へ落ちてしまうような危ない所にあり、毎回スリリングなサンプリングに向かっています。このような環境で、運転技術だけでなく、力こぶも成長(?)する日々を送り、日々精進しています。



天理局までの土手。何も見えません。



平成25年4月に新設移転した研究棟。近くには、邪馬台国の卑弥呼の墓と伝わる箸墓古墳があります。



移転にあわせ導入されたLC/MS/MSとGC/MS/MSは大気係で管理しています。



現在、独自調査として、PM<sub>2.5</sub>成分分析の365日サンプリングを実施しています。奈良県は、PM<sub>2.5</sub>でガッチリです。